

【著者紹介】

青山 道夫（あおやま・みちお）

筑波大学 客員教授、福島大学 客員教授：環境放射能学
福島第一原発事故以前から、海洋を中心に環境放射能に関する研究に従事。事故以降、事故による海洋環境への影響に関する研究をリードした。本書の執筆を主導中の2022年9月5日に逝去。

猪股 弥生（いのまた・やよい）

金沢大学 環日本海域環境研究センター 准教授：環境科学
福島第一原発事故以前から、公表されているデータを集めたデータベースをもとに放射性核種による海洋汚染の実態把握研究に取り組んでいる。

帰山 秀樹（かえりやま・ひでき）

国立研究開発法人水産研究・教育機構 放射能調査グループ長：海洋学
専門は化学、生物学を軸とした海洋学および水産学。福島第一原発事故後は水産業への影響も視野に入れた海洋生態系における放射性核種の挙動解明に取り組んでいる。

熊本 雄一郎（くまもと・ゆういちろう）

国立研究開発法人海洋研究開発機構 主任研究員：化学海洋学
福島第一原発事故前は、核実験起源炭素14をトレーサとして海洋循環を研究に従事。事故後は主に北太平洋の外洋域において、事故起源放射性セシウムの動態把握に取り組んでいる。

乙坂 重嘉（おとさか・しげよし）

東京大学大気海洋研究所 准教授：化学海洋学
化学を基礎とした海洋における物質循環研究を展開。2000年より、西部北太平洋やその縁辺海における放射性核種の動態解明とそのモデル化に向けた研究に取り組んでいる。

立田 穰（たてだ・ゆたか）

一般財団法人電力中央研究所 客員研究員：海洋放射生態学
海洋環境内での放射性核種の分布、放射性同位体の海洋環境での動態、および動的放射性セシウム生物移行モデルの研究に取り組んでいる。

津旨大輔（つむね・だいすけ）

一般財団法人電力中央研究所 副研究参事：海洋環境工学
福島第一原発事故前から海洋放射能のシミュレーション研究に従事。事故後はシミュレーションと観測の組み合わせによって、海洋放射能の動態解明に取り組んでいる。

Radionuclides in the Marine Environment

Scientific view on
the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station Accident
by 7 oceanographers

2023年5月26日初版発行

2023年5月26日電子版配信

著者 青山 道夫、猪股 弥生、帰山 秀樹、
熊本 雄一郎、乙坂 重嘉、立田 穰、
津旨 大輔 ©2023

発行所 筑波大学出版会
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
電話 (029) 853-2050
<https://www.press.tsukuba.ac.jp/>

発売所 丸善出版株式会社
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17
電話 (03) 3512-3256
<https://www.maruzen-publishing.co.jp/>

編集・制作協力 丸善プラネット株式会社

Printed in Japan

組版／富士美術印刷株式会社

ISBN 978-4-904074-77-0